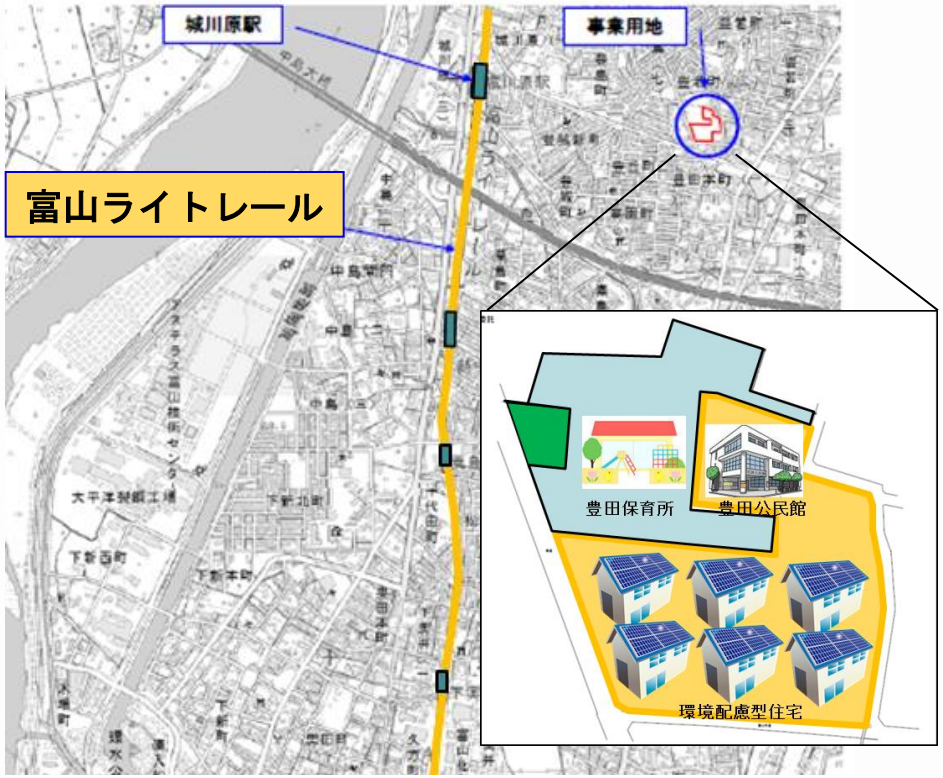
セーフ＆環境スマートモデル街区の整備

環境未来都市 とやま FUTURE CITY TOYAMA

公共交通沿線の低未利用地等において、環境に優しく、安全・安心で快適な生活を享受できるモデル街区を整備し、公共交通沿線での利便性の高い暮らしや環境等に配慮した質の高い住宅供給の促進を図る



小学校跡地に、交番、保育所、公民館、図書館等が集まる「質の高い生活環境」を提供する住宅街区をPPP（公民連携）の手法にて整備

公民館・図書館

住　宅

太陽光発電システム

リチウムイオン蓄電池

燃料電池コージェネレーションシステム

事業の基本理念

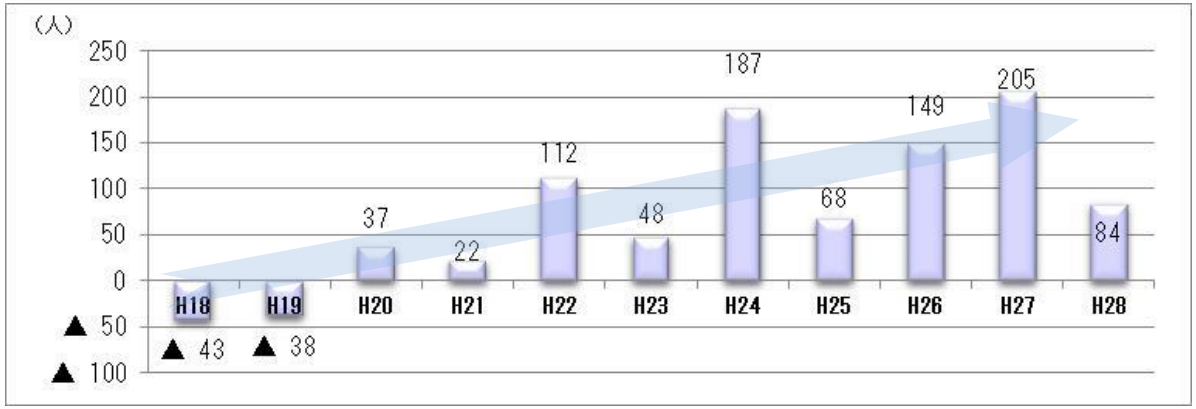
1　コンパクトなまちづくりの推進
2　低炭素・省エネルギーに配慮したまちづくり
3　官民連携による質の高い生活環境の提供

コンパクトなまちづくりの効果　～転入人口の増加～

環境未来都市 とやま FUTURE CITY TOYAMA

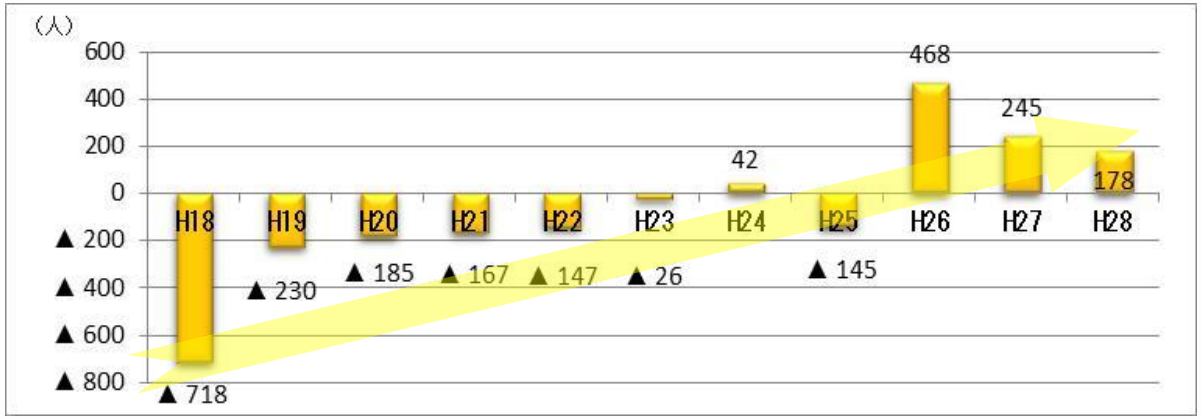
【中心市街地（都心地区）の社会増減（転入－転出）の推移】

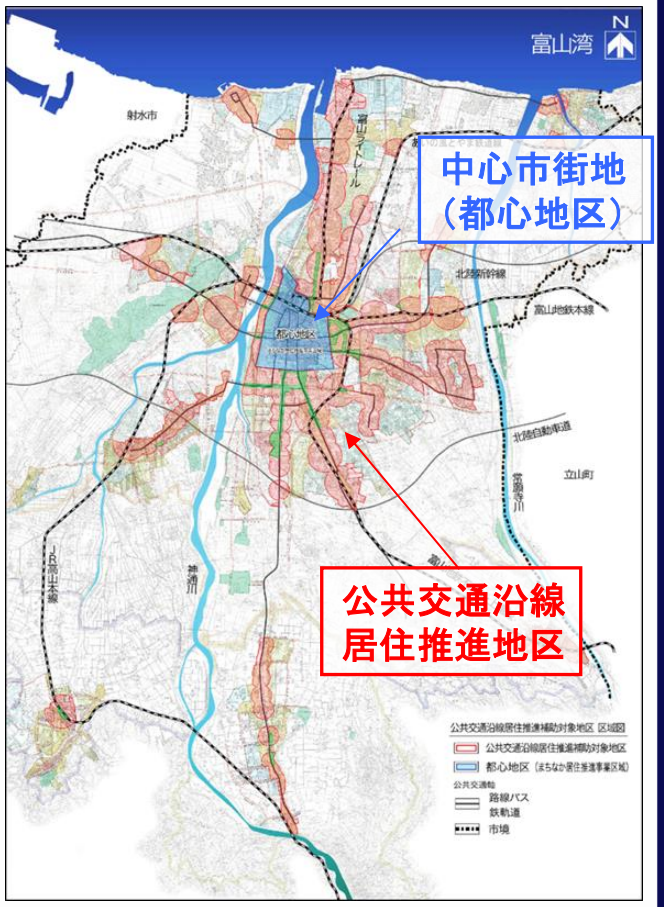
・都心地区では、平成20年から転入超過を維持している。



【公共交通沿線居住推進地区の社会増減（転入－転出）の推移】

・平成24年の転入超過以降、転入超過の傾向にある。





コンパクトなまちづくりの効果　～CO2排出量・ガソリン購入量の削減～

環境未来都市 とやま FUTURE CITY TOYAMA

自動車から公共交通への転換や公共交通沿線等への都市機能の集積などにより、
①運輸部門・家庭部門における**二酸化炭素排出量が減少**（H17-H22）
②**ガソリン購入量が減少**（H17-H26）

≪年間CO2排出量≫　（単位：t）

区分	H17年度（2005）	H22年度（2010）	増減
運輸部門	960,147	897,892	△62,255
家庭部門	709,257	697,777	△11,480
計	1,669,404	1,595,669	△73,735

※排出係数をH17年度値とした場合

≪ガソリン購入量≫　（単位：ℓ）

区分	H17年度（2005）	H26年度（2014）	増減
富山市	756.706	716.591	△5.3%
北陸	728.206	715.364	△1.8%

※二人以上世帯　出典(「家計調査結果」(総務省統計局))

【自動車中心の生活】

【公共交通・自転車等へ】

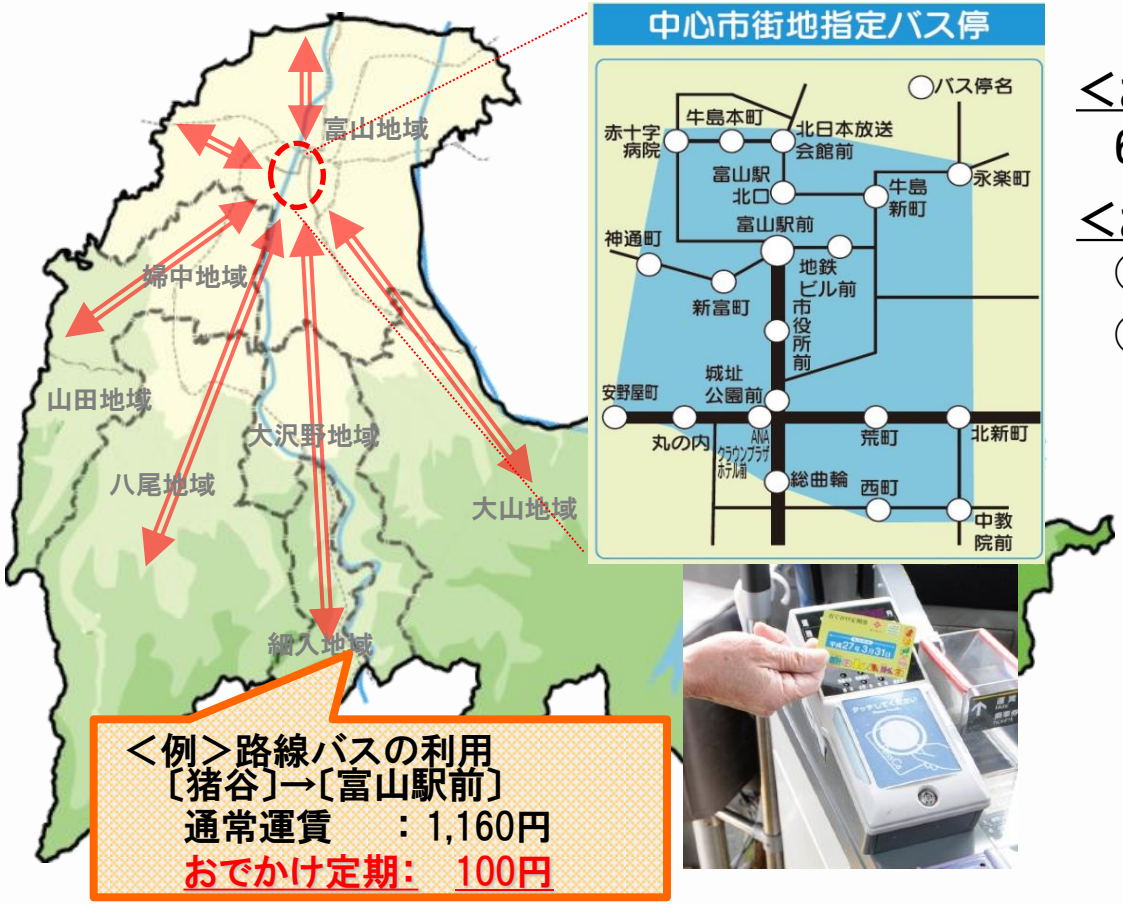
高齢者の外出機会の創出　～おでかけ定期券事業～

環境未来都市 とやま FUTURE CITY TOYAMA

交通事業者と連携し、65歳以上の高齢者を対象に**市内各地から中心市街地へ出かける際に公共交通利用料金を1回100円**とする割引制度を実施

高齢者の **約24%**がおでかけ定期券を所有し、**1日平均2, 763人**が利用　（平成27年度実績）

高齢者の外出機会の創出、中心市街地の活性化、交通事業者への支援等に寄与



＜例＞路線バスの利用
〔猪谷〕→〔富山駅前〕
通常運賃　　：1,160円
おでかけ定期：　100円

＜おでかけ定期券の申込み＞

65歳以上の方、利用者負担金1,000円

＜おでかけ定期券の利用＞

①利用時間帯：午前9時～午後5時

②利用区間

〔路線バス〕（H16.5～）

富山市内各地 ⇔ 中心市街地等の区間
中心市街地等 ⇔ 中心市街地等の区間
富山市内各地 ⇔ 富山市民病院の区間

〔地鉄電車〕（H20.4～）

富山市内各駅 ⇔ 電鉄富山駅
南富山駅

〔路面電車〕（H23.4～）

市内電車(環状線含む)、富山ライトレール

高齢者の外出機会の創出　～ヘルシー＆交流タウンの形成～

環境未来都市 とやま FUTURE CITY TOYAMA

中心市街地にある介護予防施設を核として、高齢者等が、安全・安心・快適に生活できる歩行者ネットワークを形成し、高齢者の外出・交流機会の充実等を図る

歩行補助車

大学　市民

富山大学を中心とした3年間の実証事業

安全・安心・快適に歩けるコミュニティづくりを目的に、歩行支援の仕組みとして、歩行補助車の開発、街なかにステーションを設置

大学・市民・行政・企業が一体となって取組む

街なかステーションは、平成26年10月より市が継続して実施する

歩行補助車は、製作した企業が全国展開も見据え販売する

行政　企業

地域包括ケア拠点施設の整備　～公民連携による健康拠点の整備～

環境未来都市 とやま FUTURE CITY TOYAMA

中心市街地の旧小学校跡地を活用し、公共施設の地域包括ケア拠点施設を整備するとともに、事業者の自由提案の方式により、公共施設との相乗効果が期待できる健康福祉関連の民間施設を一体的に整備

平成29年4月開業

世代間交流によるまちづくり　～コミュニティガーデン事業～

環境未来都市 とやま FUTURE CITY TOYAMA

中心市街地等の街区公園において、新たにコミュニティガーデンを整備し、**高齢者の外出機会や生きがいを創出するとともに、**地域住民で収穫の喜びを分かち合うことで、**地域コミュニティの再生**を図る

＜実施箇所＞（7箇所）
- 芝園町二丁目公園
- 南新町公園
- 中野新町公園
- 白銀町公園　など

＜供用開始＞
平成25年4月

＜面積＞
1箇所あたり 約20㎡

収穫祭

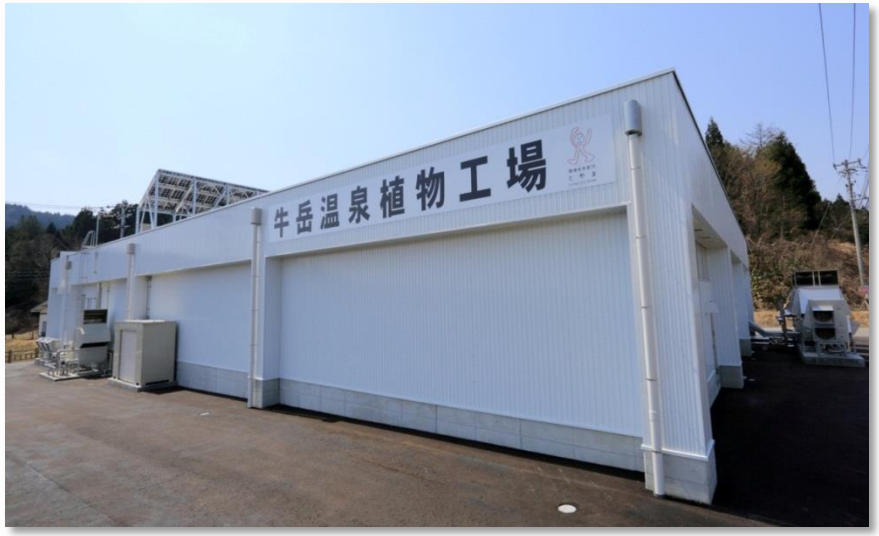
公園を耕す

焼き芋大会

エゴマの6次産業化プロジェクト

環境未来都市
とやま
FUTURE CITY TOYAMA

環境未来都市プロジェクトとして、高齢化や過疎化が進む山田地域に植物栽培工場を整備し、**「エゴマ」の特産品化**を図るとともに、生産、加工、流通販売までを一体的に行う**6次産業化**を推進し、地域における雇用創出と健康長寿都市の実現を目指す。



エゴマ

シソ科に属する一年草の薬用植物。
食べると十年長生きできるとのいわれから
「じゅうねん」とも呼ばれる。

事業効果

- ○ 新たな特産品の創出を契機とした地域振興・地域活性化により、**農山村の暮らしを維持**
- ○ 植物工場において、地元の高齢者を雇用し、**高齢者の生きがいを創出**
- ○ 有用な成分を含むエゴマを病院や学校等の給食へ活用することにより、**健康長寿都市を実現**
- ○ 露地栽培への展開(H25～)による**耕作放棄地の解消**

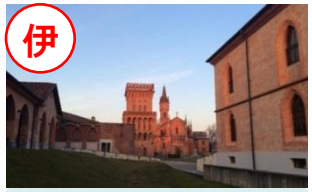
エゴマ事業の国際展開 ～イタリア食科学大学との協定締結と日伊共同研究～

環境未来都市 とやま FUTURE CITY TOYAMA

平成27年5月、イタリアの**食科学大学**と、イタリア国外の自治体としては**世界初**となる協力協定を締結するとともに、エゴマ6次産業化を目指す**環境未来都市プロジェクト**の一環として、エゴマ油とオリーブ油を最適配合したグローバルなヘルシーオイルを開発すべく、**日伊共同研究**を開始することで合意。

協定を締結する森富山市長（写真左）とシルビオ・バルベーロ食科学大学副学長／スローフード協会副理事長（写真右）

ビジョンの共有



食科学大学

INNOVHUB
（ミラノ商工会油脂研究所）

日伊
共同研究

富山大学

エゴマ　＋　オリーブ

⇒

新たなヘルシーオイル

企業等へ
知見を提供

6次産業化の推進・海外展開
エゴマのブランディング